

条例検討委員会・自分ごと化会議合同会議 第6回議事メモ

分科会	第3分科会(高齢者)
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	なし
日時	2022年 5月 22日(日) 13時30分から 16時
場所	長岡京市役所 4階大会議室
その他	参加者数 <u>19名</u> 欠席者数 <u>15名</u>

趣旨・概要

- 条例骨子(案)をもとに議論

主な論点

論点① 条例骨子(案)について

論点② 提案書のご意見に関する実施事業等について(初稿)に関する説明

協議の流れ

(コ) 当日配布資料の確認、今後のスケジュールについて説明。

● 条例骨子案に関する説明。

(市) 長岡京市 共助と連携のまちづくり条例骨子(案)と提案書との関連性について説明。

(会長) 長岡京市 共助と連携のまちづくり条例骨子(案)について説明。

- ・ 「(仮称)自治振興条例」としてきたが、分かりやすく「共助と連携のまちづくり条例」とした。
- ・ この条例は市民等に義務を課す条例ではない。市長にも確認。自治会に入らないといけない、地域活動に参加しなければならないというものではない。自主性に任せるもの。
- ・ 基本的な考え方・理念を共有するためのもの。共助と連携。地域での助け合い。こういう役割を期待するというものを整理。
- ・ 市民等には「期待する役割」を規定した。
- ・ 前文には、ニーズの多様化・自然災害などへの対応をしていくには、行政の活動はもちろん、地域の支え合いが重要であるということを書いた。市民支援団体・市民活動団体が活発に活動して行政と連携して活動してきた。誇れるもの。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

- ・ 「テーマに共感した人たちが自由に参加するコミュニティ活動が行われていること」を書いたが、検討委員会で付け加えた単語。組織や団体にこだわらず、テーマに共感した活動を展開している。特に若い方は、「共感」で活動していると感じる。若い人たちは強制されて行うのではなく、自由な活動に参加したい人が多く、その大切さを書いている。そうした人たちを「コミュニティ活動参加者」としていることが、この条例の特徴である。組織に入って組織の方針に基づいてというのは遠慮する人も多いので、そういう方も捉えていきたい。まちづくりの担い手を育てていきたい。
- ・ 用語の定義については、「市民（関係人口を含む）」が特に説明が必要。長岡京市民だけでなく、長岡京市で働いている、学校に行っている、何かの事情で長岡京市に来ている、など。ここでいう市民はこれらを含む広い定義。「共助」が、まちづくりの基盤であることを規定している。
- ・ 地域コミュニティ協議会に期待する役割を規定しているが、自分ごと化会議でも「自治会との違いが分からない」などの意見が多く、分かりやすくするために自治会と合わせて規定を設けることとした。
- ・ 情報の共有については、自分ごと化会議で多くの指摘があった「情報が伝わらない」という課題の解消のために規定した。
- ・ 自分ごと化会議では、無作為抽出の自分ごと化会議を評価いただいた。普通の人たちがまちの課題について議論できる場を規定することとした。さらにその場から、新しいまちづくりの担い手が育つことを期待することとした。
- ・ 「記念日」を設けたいという意見が条例検討委員会が出されたので13番目に規定することとした。その名称はまだ決まっていないが「助け合いとつながりの日」を案としたのは、なるべく分かりやすい言葉としたかったから。

条例骨子案に関する意見交換

(委員) この条例で市民を縛ったり義務づけたりするものではないというのはわかった。ただ、日頃活動している立場からすると、この条例があることでどのように活動がよくなっていくかの条例とのつながりはわからない。だが、この条例の趣旨からしたらこんなものかなとも。

(会長) 条例によって、行政・市民双方のマインドが変わっていくことが一番だと思う。市民等に期待する役割が実行する際に、行政が必要な支援をするということを定めている。何が必要かはその時、その場面で考えていく。

(委員) 協力と連携という大きな柱があるのかと思う。テーマ型の活動を地域でされている団体があれば、自治会としては連携したい。行政にはそういった連携の窓口としての役割を期待しているので、そういったことが明記されているとありがたい。

(会長) 条例の中に個別具体的なことをどこまで書けるか。条例を制定するにあたって、市が冊子を作る予定なので、そちらに記載できるかもしれない。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

(様式3)

(委員) 自治会の役割として、市への提言も重要な役割だと思う。地域住民の代表として自治会が行政とやり取りをすることで様々なことが進む。それをくみ上げるのも行政の役割ではないか。

助け合いとつながりの日という条例記念日の名称は良いと思ったが、条例名は「共助と連携のまちづくり条例」と固い名前だと感じるので、記念日のようにすればやわらかい印象の名前にすると良いと思った。

(会長) 難しい問題だと思う。個人か団体かで対応が変わることがあってはいけない。また、自治会以外の市民活動団体の要望も大切であるので、自治会だけに絞って書いてしまうのはどうなのだろうか。

(委員) 自治会長であれば何とかしてもらえないのではと期待されている住民が多い。市とのパイプを持っていると認識されている。他のルートもあってしかるべきだが。

(副会長) 地域の自治会というのは、ほかの自治会がその地域について口出しはできない。ある意味独占的な機関である。また、自治会は地域の課題への干渉、親睦機能、地域の管理機能など大きな力を持っており、地域の課題を市へ提言できるのも自治会長であると思っている。

(会長) 自治会が地域住民の代表機関だと位置づける法律や条例はない。それを踏まえて、今回の条例でどこまで位置づけるのかという議論をしている。

私は市長時代に、上がってきた意見に対して、誰の意見かではなく中身がどうかで判断するように心がけていた。だが、同じ地域の中の人で対立して、落ち葉が大変だから並木を切ってほしいという意見と、並木良い景観だから大切にしましたという議論を自治会の中で議論をしましたということであれば、自治会の意見を採用するようにしていた。

条例で形式的にどちらかを優先するのは怖いと思うが、自治会が政策提言をすることは大事な機能だと思っている。うまく条例にかければよいが、先ほどの市民活動団体などうまく整理するのは頭を悩ませないといけないと思っている。

(コ) 助け合いとつながりのまちづくり条例という名前でも良いのではという意見があったが、今の条例の名前になったいきさつを教えてほしい。

(会長) もともとはもっと長い名前にしていた。シンプルの方が良いと思い今の名前にした。条例の記念日も共助と連携の記念日としていたが、やわらかい印象の名前にした方が良さだろうということで、助け合いとつながりの日とした。助け合いとつながりの条例というのも面白い提案だと思う。ほかの検討委員の意見はいかがか。

(条例委員) この条例が皆さんに親しみやすい名前、耳にやさしい条例の名前というのも大事だと思うので、ぜひ次回の検討委員会で検討したいと思う。

(委員) 条例のなかにまちづくりという名前がいっぱい出てくるので、シンプルにまちづくりの条例でよいのではないかと思った。

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

(委員) この条例によってどのように変わってしまうかがとても心配で活用と制限が気になる。条例の解釈が変わって義務が増えたりするのではないか。戦時中の組織のように変わっていかないと危惧している。

(会長) 市民に義務付けたり義務を課するのが条例ではあるが、この条例では市民に義務を課したりするものではないということを基本的な考え方にしている。

市の方針や市長の意見ではなく条例にするので、議会を通さないと変更はできないということになる。条例の解釈が変わっていくことについて心配されていたが、今回は条例の解説本も作るので解釈が独り歩きするのを防ぐ。

(コ) 今回は前文作る条例ということだが、そこにもよりわかりやすい言葉で精神は表現されるのか？

(会長) 前文は作るが、前文に市民の義務を課すものではないと明記するということは考えていない。考え方として持っているだけである。明記した方が良いということであれば、検討委員会で検討したい。

(コ) 一方で自治会に加入率が下がっていたりもするので、義務のバランスをどうとって条例にしていくかについて意見がある方はいるか？

(委員) 無作為抽出の方はなかなかまちづくりを考える場に参加してくれないと思うので、毎回参加してくれるのは同じ人になってしまうのではないか。無作為抽出によってどういう場づくりを考えているのか。

(会長) たしかに無作為抽出の方の参加率は高くない。長岡京市は3%。先進のドイツでも5%程度。だが、同じ人が何回も出てくるということは今までない。今まで地域の活動に参加している人ではない人が参加して活発に議論してくれるので、これは使わない手はないということで、無作為抽出方式を取り入れようとしている。ただ、無作為抽出で参加した方がどう議論に参加してもらうかは、行政の腕の見せ所なのだと思う。

(コ) 長岡京市は公共施設については充実していると思うが、無作為だと女性や若者の参加率が高くなる。地方議員の耳に入る意見とは違った意見が出てくるところが利点。こういった会議ができる場が長岡京市の公共施設に少ないと感じている。

(市) 現在新庁舎の建設中。1期庁舎が今年度に供用開始。産業文化会館が2期工事で庁舎に機能移転する。そこには大きな会議室も。

(副会長) 自治会の加入率は下がってきていて、自治会は絶滅危惧である。ただ、若い方がこのように自分ごと化会議に参加してもらっていることについて、長岡京市の未来に光明を見出したと思っている。そう思って、条例にこの場の参加者から、市民等の活動の新たな担い手が生まれることを期待するという一文を入れている。私の願いはこの一文に込められている。年寄りでも集まってもあまり目新しい意見は出ないが、自分ごと化会議では若い人が新しい視点で意見を言ってもらえるのを何度も目にした。

(会長) 自治会の中で無作為抽出の会議をやると、いろんな意見が出てよいのではない

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

か。間違いなく無作為抽出だと、いろんな意見が出てくるというのはある。若い世代と女性は多くなる。これは自治会でも応用できるのではないか。

(委員) 用語の定義の中に教育団体が入っていないのはなぜか。通勤や通学している人である関係人口を市民等に含むのであれば学校等の教育団体も含めるべきではないか。

(会長) 義務教育ということであれば、大きく言えば行政に含まれるだろう。条例の中身として教育について期待するものというのは入れていない。教育に期待する役割については議論の必要があると感じる。

(委員) 学校の先生の意見を吸い上げる場があってもよいのでは？

(会長) 無作為抽出によって学校の先生に来てもらえることはあるのではないかと思う。用語として教育団体を入れてしまうと文化団体などいろんなものを入れなくてはという話になってしまうと思うが、中身として教育や子どもの学ぶ場が入るかどうかの検討が必要ではないかと思った。

(コ) すぐ子供が自治会に参加しないだろうが、将来の担い手としてその人たちへのアプローチとして条文に入れることを検討するのか？

(会長) 前文のところで、子供から子育て世帯、高齢者までと書いていて、さらっと読めてしまうが検討委員会の思いが入っている文章ではある。

(コ) 他に条例についていかがか？

(委員) 事業者に期待する役割として、「必要に応じて」とあるが、具体的にどんなものをイメージしているのか、過去の論議経過があれば伺いたい。

(条例委員) この部分について深い議論はなかったと思う。

(会長) 事業者に常に参加してもらうのは負荷が大きいので、役割を果たしてほしい場で活躍してほしいということで、必要に応じてという書き方にしているのでご理解いただきたい。

(委員) 事業者と地域との連携はこれからますます必要になってくるという背景があるので、これまでの論議経過があれば聞きたかった。

(会長) 会社で地域と連携している事例があればお聞かせ願いたい。

(条例委員) 村田製作所はあまりまちづくりに協力していることをPRしていないが、J R駅東口の再開発に協力していて、長岡京市と包括提携している。村田製作所の蓄電池でソーラー発電し駅の東側で使う電気を賄いカーボンゼロにするなどしている。ほかにも商店街でセンサーなどをつかって密の状態を測定するなど、お金や設備で市と協力は行っている。

(コ) 事業者の市への協力の姿があまり見えていないところはあるのだと思う。川の清掃などにあまり人が集まらないので、スーパーの店員がおそろいの服を着て清掃するなど、アピールしていることもある。あまりやりすぎるとアピールになるが、もう少し企業が地域貢献していることをアピールしてもよいのではないか。

(副会長) ガラシャ祭でも協力いただいている。PRをされていないだけで、お世話にな

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

っているところは沢山ある。

(会長) 事業者は大きい組織だけでなく、商工会なども含まれる。事業者はあらゆる範囲にいろんな方がいるし、それらの協力は力になる。

(条例委員) 村田製作所は災害時の避難拠点になっているなどの協力もしている。

(委員) 企業や事業者がまちづくりや地域貢献に無関心ではないことはわかったのだから、この条例でもっと事業者がどう協力していくか市民に分かる表現があったらいいなと思った。

(会長) 解説書の中で例を示していければよいと思う。

(市) まちづくりの日にしてはどうかという意見があった。市ではすでにまちづくり条例というものがある。ハード整備に関するもの。

(5) 自分ごと化会議提案書のご意見に関する実施事業等について

市) 自分ごと化会議提案書のご意見に関する実施事業等について説明。

- ・ 自分ごと化会議の提案書について、市が既に行っている、頑張っていることが伝えられていないので、このメンバーにはぜひ伝えたいという気持ちでこの資料を作った。
- ・ 担当課に照会をかけたが、専門用語があったりして分かりづらい部分がある。
- ・ 今日のご意見を踏まえ、7月の自分ごと化会議に修正版を提出したい。
- ・ 分かりづらい点や追加してほしい点があれば、ご意見をいただきたい。

(6) 自分ごと化会議提案書のご意見に関する実施事業等に関する意見交換

(コ) 私がこの資料で大事だと思っているのが、「実はすでに市が行っている」という所で、市はどんな事業を行っているかを知ってもらうためにもっとエネルギーを注ぐべきだと思っている。ただ、すべての事業と取り上げることはできないので、こういう事業があるというのを必要な人にどう伝えるかが大切だと思う。世代間の交流やほかの課題などについてご意見はいかがか？

(委員) 自治会の中で夏祭りをどうするかが課題になり、活動に参加されている方たちの中では夏祭りをやろうという意見が多かったが、コロナもあるので、住民全員にアンケートを取った。その結果半分がやらない、四分の一がやろう、四分の一がどっちでもよいという意見になった。アンケートにより改めて自治会の中でも世代間の差があるということが分かった。

(コ) 非常に丁寧にやっている自治会であると感じる。課題3-3について、市内にどのようなサークルがありますかときいて、こういう答え方はないなと思う。ほかにもいろんな活動をされているとは思いますが役所が回答するとこういう固い回答になってしまうのかと思った。

(副会長) NPO や市民活動サークルなど 168 団体ほど載っている冊子が長岡京市には

(会長)：条例検討委員会会長、(副会長)：条例検討委員会副会長、(委員)：自分ごと化会議委員、(条例委員)：条例検討委員会委員、(コ)：コーディネーター、(市)：市事務局

(様式3)

ある。その冊子には、生活課題の解決のためのクラブもあれば、山歩きなど趣味のために仲間を集める団体なども載っているというもの。すでにこのような団体の紹介冊子があるにもかかわらず、知られていない。行政さんはたくさん良い活動もやっているのにPRが下手なのではないか。

(委員) 中央公民館に行ったら、何とかサークルやっていますというのが置いてあったり、サークルの募集用紙が置いてあったり、たくさん情報が得られた。高齢者の方がサークルに入りやすいのではないかと思う。だが、それを知っている人も少ないし、コロナ禍で公民館の利用者も減っている。

(市) 市職員は電話や窓口で案内するのは得意だが、書類にするとうまくできないのかなと思った。市が行っていることを使ってもらうためにどうPRできるかが市全体の課題であると感じている。

(コ) 私の県内の近くの町で、高齢者の外出促進のためにコンビニエンスストアや店舗と協定を結んで公共のトイレ協力店という、買い物をしない方もトイレ自由にお使いくださいのようなものを始めた町があったので、長岡京の川沿いの散歩道でも可能性はあるかもしれないなと思ったが、長岡京市ではやっていたりするのか？

(市) やっていない。川沿いに住宅街が多いので、買い物できるような場所がないのかもしれない。

(委員) 自分ごと化会議提案書のご意見に関する実施事業等について(初稿)では、どのようなサークルがあるかについて、課題3-3 担い手④の①のところで、生涯学習課以外が登録している団体も回答に含める方がよいのではないか？

(市) 施設ごとに登録が縦割りになっているので、おっしゃる通り。

(委員) 2ページ目⑧と3ページ目⑤は聞かれている内容が違うのに同じ回答になっている。そして回答も要領得ないものになっている。ここは次回までに修正をお願いしたい。

(市) 修正が必要であると思っている。